

60th
世界へ、未来へ、+iを。

ミウラグループCSR報告書

CSR Report 2019

熱・水・環境のベストパートナー



熱・水・環境のベストパートナー



三浦工業株式会社



ミウラは Fun to Share に参加しています



未来のために、
いま選ぼう。



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C016467



VEGETABLE
OIL INK
Printing. Naturally.

印刷日 2019年6月 5001
本冊子の無断転載を禁止します。

会社概要

[社名] 三浦工業株式会社
[事業内容] 小型貫流ボイラ・舶用補助ボイラ・排ガス(廃熱)ボイラ・水処理装置・食品機器・滅菌器・薬品等の製造販売・メンテナンス・環境計量証明業等
[所在地] 愛媛県松山市堀江町7番地 〒799-2696
[代表者] 代表取締役 社長執行役員 CEO 宮内大介
[創立] 1927(昭和2)年12月1日
[設立] 1959(昭和34)年5月1日
[資本金] 95億4,400万円
[発行済株式総数] 12,529万株(東証一部)
[証券コード] 6005
[連結売上高] 1,388億80百万円(2018年度)
[従業員数] 連結5,690名(2019年3月31日現在)
グループ5,726名(うち海外1,664名)
(正社員・準社員のみ)



グループ会社

[国内]

三浦工機株式会社
三浦アクアテック株式会社
株式会社三浦マニファクチャリング
三浦環境マネジメント株式会社
株式会社ミウラ・エス・エー
ミウラジョブパートナー株式会社
アイナックス稻本株式会社 他

[海外]

韓国ミウラ工業株式会社
三浦工業(中国)有限公司
台湾三浦工業株式会社
ミウラサウスイーストアジアホールディングス社
ミウラシンガポール社
ミウラインドネシア株式会社
三浦工業(タイ)株式会社
マルセエンジニアリング(ベトナム)株式会社
ミウラインターナショナルアメリカス株式会社
ミウラアメリカ株式会社
ミウラカナダ株式会社
ミウラボイラメキシコ株式会社
ミウラボイラブラジル有限会社
ミウラネザーランド株式会社
三浦トルコ熱システム工業有限会社

事業概要

ミウラグループは、ボイラで培ってきた「熱・水・環境」の技術を活かし、「電気・空気」まで含めた幅広い分野で事業を展開しています。

省エネルギー・CO₂の排出量低減を実現する技術、熱エネルギー利用や水処理の技術を活かした船舶用の機器や、食品の加熱加工や冷却、また医療器具等の洗浄や滅菌、業務用洗濯・乾燥機等さらには環境関連技術を軸とした事業領域で、国内外のお客様が抱えている問題を解決する製品とサービスをお届けしています。

ミウラグループは
持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献します

国連が2015年9月に採択した「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」には、2030年に向けて、貧困・不平等・気候変動などの世界的な優先課題やるべき姿を明らかにし、17の目標と169のターゲットを掲げています。

ミウラグループは、「環境・水・エネルギー」などミウラグループの事業に関連の深い目標をはじめとする重要課題を決めて積極的に取り組み、持続可能な社会の形成に貢献できるよう活動していきます。



CONTENTS

- ミウラグループの概要 1
- トップコミットメント 3

- [特集1]
 - 世界に広がるミウラの環境貢献 5
- [特集2]
 - 広がる事業領域 9
- [特集3] 60周年記念企画
 - 1.企業理念の改定と60周年事業の推進 11
 - 2.ミウラ60年の歩み 13
 - 3.私たちのCSR活動 15
- [特集4]
 - 西日本豪雨におけるBCPと今後への対策 17

E 環境報告

- 環境マネジメント 19
- 汚染防止の取り組み 21
- 省エネルギーの取り組み 21
- 自然との共生 22
- 省資源の取り組み 22

G ガバナンス

- コーポレート・ガバナンス 23
- コンプライアンス、リスクマネジメント 24

S 社会性報告

- お客様への責任と行動 25
- 株主・投資家への責任と行動 26
- 取引先への責任と行動 27
- 従業員への責任と行動 28
- 地域社会への責任と行動 29
- 財務・非財務データ 31
- 第三者意見 33
- 第三者意見を受けて 34

熱・水・環境の分野で、環境に優しい社会、 きれいで快適な生活の創造に貢献します。



三浦工業株式会社
代表取締役 社長執行役員 CEO
宮内大介

ミウラグループ企業行動規範

1. 法令等の遵守

- 国内外の法令を遵守することはもちろん、企業倫理に照らして誠実かつ公正に業務を遂行します。
- 國際的な事業活動においては、国や地域の文化・慣習を尊重します。

2. 安全性の重視

- 安全性を第一に考えたものづくりを行います。
- 健康で安心して働ける、最も働きがいのある職場づくりに努めます。

3. お客様の満足・信頼

- 社会的に有用で高品質の製品やサービスを創出し、お客様に満足をお届けしてまいります。
- 最高のテクノサービスを追求し、お客様から信頼される企業へと進化発展を遂げることを目指します。

4. 人権の尊重

- 従業員の人格、個性を尊重し、自由かつ公平な職場の実現に努めます。
- 人種、国籍、民族、宗教、信条、性別など、非合理的な理由により差別的な取り扱いは行いません。

おかげさまで、設立60周年 すべてのステークホルダーの 皆さまへの感謝を込めて

ミウラグループは1959年5月1日株式会社三浦製作所として設立し、ボイラの製造販売をスタート。2019年5月1日に設立60周年を迎えることができました。ここまで支えてくださった、ステークホルダーの皆さまに改めて感謝申し上げます。60周年を迎えるにあたり、理念体系図の改定や新たなプランディング戦略をスタートさせました。ミウラグループではこれまで、創業者 故 三浦保の「夢」を柱に、さまざまな事業展開を進めてきました。その「夢」は、今では世界に広がり、21の国と地域で、ミウラの製品が製造・販売・メンテナンスを通じて各国の環境保全活動へ貢献しています。また、5,700名を超える従業員はそのミッションに誇りをもって取り組んでいます。中でも中国では石炭焚きボイラのガス化に伴い、ガス焚きボイラの需要拡大に対応するため、日本と同等規模にあたる第2工場の建設が進んでおります。また、ASEAN地域では新たな駐在所や支店を開設し、各国の環境負荷低減へ貢献するための市場調査を積極的に展開しています。

8月より、60周年を記念した「愛とひらめきミウラフェア」を全国5会場で開催し、ミウラがご提案する最新の省エネ技術や、低炭素社会の実現に向けてミウラが取り組む水素関連機器について世界のお客様にご覧いただく予定です。100年企業を目指して従業員一人ひとりが主体性をもってチーム・ミウラで取り組んでまいりますので、是非ご期待ください。

災害から学ぶ

2018年は多くの自然災害が発生した年でもありました。被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。2018年7月の西日本豪雨では、ミウラグループの製造工場において工場内が浸水する事態になりました。わが社のBCP基本方針に沿ったBCPプログラムを発動し、関係会社、お客様すべてのステークホルダーの皆さまのご理解とご協力により、従業員一丸となり早期復旧を実現することができました。被災されたお客様に対しても1日も早い復旧を目指し、一体となって精一杯協力をさせていただきました。いつ起こるかわからない自然災害に備えて、今回の被災経験を生かして社内のBCP対策をより強固なものへと拡充し、ミウラグループ全体の生産体制向上を図ってまいります。

持続可能な社会の実現に向けて

ミウラグループでは持続可能な開発目標(SDGs)の達成のため、熱・水・環境にかかる技術や電気・空気・水素などのエネルギー関連事業での課題解決に向けてミウラ独自の技術を生かして積極的に取り組み、持続可能な社会の形成に貢献できるように活動しています。また、従業員一人ひとりが自分事として取り組んでいる社会貢献活動や、世界が抱える課題への取り組みなど、「ひとり、ひとりの+」を。」というテーマで、そのひらめきに愛はあるかな?と自分に問い合わせながら業務に取り組んでいます。

今後のミウラグループの取り組みにご期待いただきますとともに、引き続き、皆さまからの一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

7. 社会貢献・反社会的勢力との関係

- 「良き企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います。
- 反社会的な活動を行う団体や勢力とは、一切の関係をもちません。

8. 企業情報開示・情報管理

- 社会が必要とする企業情報を適正かつ適時に開示し、開かれた企業を目指します。
- 個人情報やその他の重要な秘密情報は、細心の注意をもって管理し、その保護に努めます。

培った技術を最大限に生かしています

三浦工業(中国)有限公司では、「中国の空をきれいな青空にしたい」とスローガンを掲げ、新工場の建設をはじめ支社の数も120拠点を超えるなど、ミウラグループ海外においてNo.1の実績を誇っています。日本で評価された技術は世界を舞台に活躍の場を広げています。



中国第2工場

中国の青い空のため、 社員一丸となって邁進中

三浦工業(中国)有限公司
EM本部 傅文軍

ミウラ中国社員一同は中国の空を青くするために、日々環境にやさしい製品の提供に努力しています。現在、第2工場の建設と併せ、北京近郊に薬品工場、大連に水分析室を展開するとともに、石炭焚きボイラからの入れ替えを加速することで、さらに“中国の青空”に貢献してまいります。

中国の環境課題の現状と最近の規制

2018年国家宣言【青空を守る戦いに勝利するための3カ年行動計画】に基づき、各省(市)より小型石炭ボイラ規制(石炭から生物質燃料への転換やガスボイラ低NOx改造)が打ち出され、北京/河北/鄭州/成都/西安の規制値は30mg/m³(18ppm O₂=0%)と世界トップレベルの環境基準となっています。

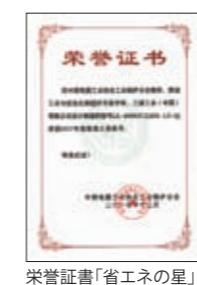
また、京津翼区都市建設区、長江デルタおよび珠江デルタ地区など中国を代表する工業地域では、熱源供給企業が保有する石炭焚きボイラに対しガス化改造が加速し、とくに京津翼区都市建設区においては「京津翼及び周辺地域大気汚染予防」条例のなかで、「2+26」都市ごとの大気汚染予防計画とともに低NOx改造を奨励する補助金政策が打ち出されています。

ミウラ中国は省エネ性能の高い低NOx対応商品とサービスを整備し、中国の空を青くするためにさらに尽力してまいります。

環境Topics 貫流ボイラの普及を通じ中国の環境保全に貢献

ミウラ中国で生産する貫流ボイラは4年連続で【国家工業省エネ技術装備賞】を受賞し、そのうち3機種(CZI-2000GU、CZI-4000GU、LX-4000GU)が最上位省エネ商品として【省エネの星】に認定されました。

併せて、長年のロビー活動を通じ中国のボイラ法規(ボイラ安全技術監察規定)において、貫流ボイラの水面計、給水ポンプ等の簡素化設計基準が認められたことは、三浦工業の60年における技術と経験および先進的な理念が中国のボイラ技術の発展に寄与しているものと評価できます。



荣誉証書「省エネの星」

■中国におけるボイラ排ガス規制

新設ガス焚きボイラNOx規制値		ミウラボイラ対応範囲
400mg/m ³	2014年以前の国家基準	標準仕様
200mg/m ³	2014年 7月 国家基準	低NOx仕様
150mg/m ³	2014年10月 上海市	
80mg/m ³	2015年 7月 北京市	
30mg/m ³ (18ppm)	2017年 4月 北京市等	LX(米国仕様)
東京都は 40ppm (O ₂ =0%)	極めて厳しい 規制が始まる	環境規制の厳しい 米国仕様の ボイラを投入

中国大手企業、日系企業等へ提案営業中



CZI納入前



CZI納入後→

2020年、蘇州に 第二の環境改革発信基地が完成予定

今、中国は急速な経済発展により「世界の工場」から「世界の市場」へ変貌を遂げると同時に環境規制も急速に激化しています。この状況を受けて、ミウラ中国は環境貢献商品の供給体制強化と環境に優しいものづくりをコンセプトに、現工場比3倍規模の第2工場を建設中です。

■第2工場コンセプト

商品対応力 生産能力増強+実験場・メンテ実習場を有する商品開発力とメンテ能力の増強

環境負荷低減 LED、自然採光、排水中和処理、強制換気設備等の採用

見せる工場 展示ルーム、見学者専用通路の設置

魅せる工場 従業員セミナー施設、ライン化によるものづくり環境の充実

納入事例 中国で省エネ・環境保全の 実績を積み重ねるCZIシリーズ

炉筒煙管ボイラからの入れ替え案件として、「上海味之素氨基酸有限公司」様向けにCZI-4000GUBボイラ5台の受注をいただき、入れ替え前と比較して、右の3点の著しい省エネおよび環境改善効果が得られました。

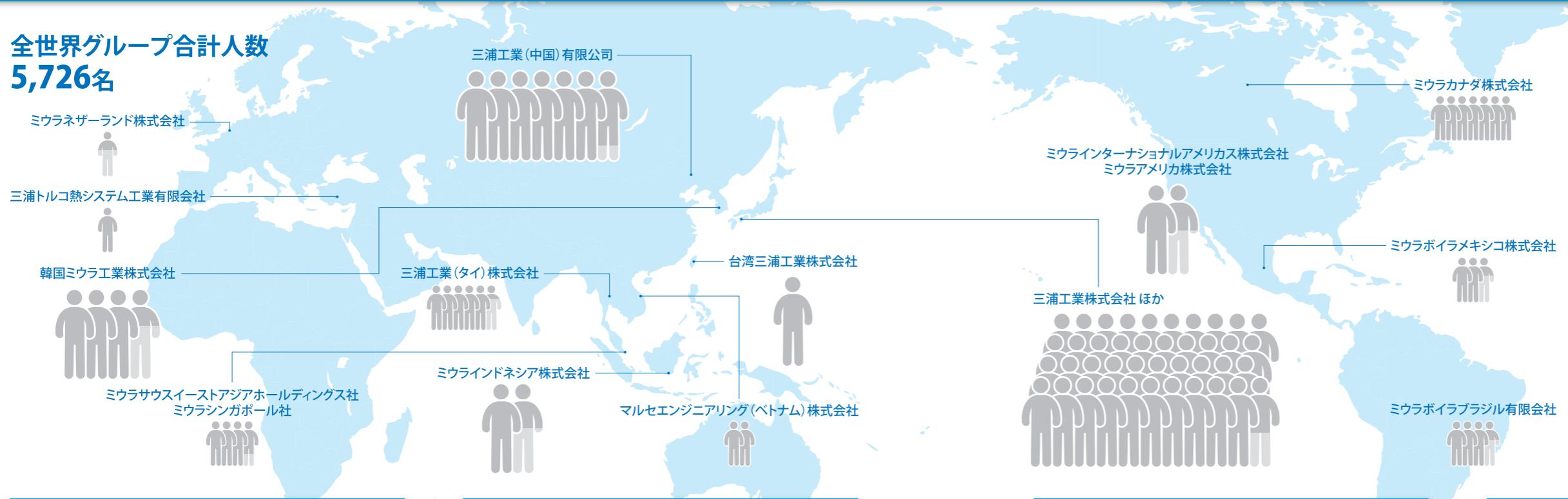
併せて、ZMP保守契約により、継続した性能保証を提供できるものと考えています。

①システム効率が96%となり12ポイントの向上

②燃料費等の経費削減が年間186万元の見込み

③NOx値が180mg/m³から25mg/m³へ低減

全世界グループ合計人数 5,726名



韓国ミウラ工業株式会社

SQ高効率仕様CE認証*を取得

韓国駐在部 山口 浩平

ミウラ韓国が製造販売を行っているSQ高効率仕様が、2018年9月にCE認証を取得いたしました。SQ高効率型は、今まで主に韓国国内のお客様およびCE認証を必要としないアジア圏のお客様へ納品して参りました。このたびのCE認証の取得により、ボイラの設置や定期検査時にCE認証を必要とする国や地域への輸出販売が可能となります。既にトルコへの出荷が開始されており、トルコのお客様より好意的な評価をいただいています。今後、CE認証を必要とする国、地域の工場で、低NOx・高効率のSQボイラをご使用いただくことで、大気環境汚染物質排出量およびCO₂の削減に大きく貢献できるものと考えています。



圧力容器PED

*商品がEU加盟国の基準に適合していることを示す認証。



トルコのお客様の工場に設置されたボイラ

台湾三浦工業株式会社

排出ガス規制強化により、省エネMIシステムの導入増加

営業メンテ推進部 廖婉鈞

台湾では、昨年7月に排気ガス規制が厳格化されました（規制値は、NOx:100ppm、SOx:50ppm、煤塵30mg/Nm³）。この規制で、主力ボイラの燃料は、重油・石炭から環境負荷の低い天然ガスに転換が始まりました。

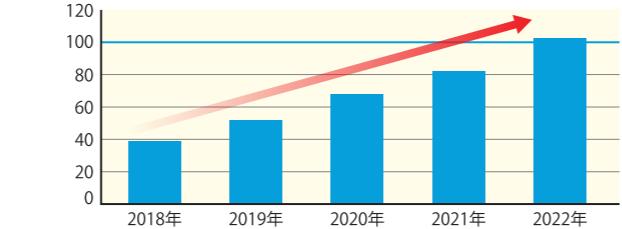
今回は約2,300台の大型ボイラが規制対象となり、ミウラ台湾にとっても、省エネルギーとCO₂削減で大きな貢献ができるチャンスになっています。2018年から、大型ボイラをミウラのガス焚き高効率ボイラに入れ替える事例が増加しており、この貢献度の流れはさらに加速していく予想しています。台湾でも省エネと環境改善の観点から、MIシステムの知名度が高くなっています。今後も需要増が見込まれることから、現地従業員を増員することで、生産と販売体制が強化し、これまでの約2倍の省エネ診断やご提案が可能となりました。

ミウラ台湾は高効率ボイラの販売で、約40万t/年のCO₂削減を実現（2018年時点）しています。2022年度には、100万t/年の削減を目標に、台湾の環境改善に貢献していきたいと思います。



ビール工場に設置されたガス焚きボイラ

■CO₂排出削減量目標 (万t/年)



ミウラシンガポール社

アジアの新興国(バングラデシュ)への挑戦

バングラデシュ駐在員 モハマド・リズワン

ミウラシンガポールでは2018年に3つの新しい拠点を開設しました。今回はその中でも一番過酷な環境下に挑戦している様子を紹介します。同地の乾季は、水の引いた川原で建築用のレンガを焼いている光景が多く見られます。



レンガ作りの排気ガス

ボイラの燃料は石炭や粉砕が主流で、同様の排気ガスをモクモクと上げています。染色・織維が主要産業で、市場蒸発量は3万～5万t/hとも言われており、当社管轄地域ではトップです。



バングラデシュのボイラ

現地拠点はメンテナンスを主とするメンバーで構成されており、貫流ボイラに馴染みのないボイラマンに日々指導・アドバイスを行いながら貫流ボイラ普及に努めています。

■担当者のコメント

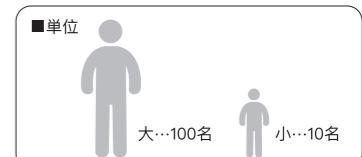
アジアの最貧困国と称されるバングラデシュですが、世界的なアパレル企業の原材料がここで生産されている現状があります。単価競争が激しいため、環境対策などは後回しになっています。また、バングラデシュでは年に1～2件の炉筒煙管ボイラの爆発事故が発生し、人身事故になるケースもあります。貫流ボイラ導入による安全環境が最大の使命を感じています。

我々の挑戦はミウラのボイラを普及させ、自然環境・労働環境・省エネ環境の改善につなげることと思っています。

シンガポール駐在部 坂本一之

海外グループ会社一覧

韓国ミウラ工業株式会社
三浦工業(中国)有限公司
台湾三浦工業株式会社
ミウラサウスイーストアジアホールディングス社
ミウラシンガポール社
ミウラインドネシア株式会社
三浦工業(タイ)株式会社
マルセエンジニアリング(ベトナム)株式会社
ミウラインターナショナルアメリカス株式会社
ミウラアメリカ株式会社
ミウラカナダ株式会社
ミウラボイラメキシコ株式会社
ミウラボイラブラジル有限公司
ミウラネザーランド株式会社
三浦トルコ熱システム工業有限公司
(2019年3月末)



ミウラインドネシア株式会社

ボイラの排水量の削減による省エネルギー

インドネシア駐在部 河合直人

2016年よりインドネシアでも水処理事業を開始しています。国土も広く水質がさまざまであるため、エリアによっては水質が非常に悪く、ボイラの排水量を日本の3倍以上にしなければボイラの性能が維持できないケースが多くみられます。ミウラインドネシアではこのような排水によるエネルギーロスを改善するための提案を行っています。



また最近、首都のジャカルタ近郊では地下水の汲み上げによる深刻な地盤沈下が発生しており、節水の意識も高まっています。



現地水処理システム

■製品開発担当者のコメント

逆浸透膜装置を設置することで、ボイラ給水の水質を向上させて排水量を従来の1/7に低減することに成功しました。その結果、燃料使用量も7%削減することができました。

ミウラの水処理技術で今後も、インドネシアの環境向上に寄与していきます。

インドネシア駐在部 水処理営業担当 和田勤

熱・水・環境のベストパートナーのミウラはボイラを核にさまざまなソリューション提案の幅を広げ、総合力による差別化・優位性を確立することを進めてきました。

世界のお客様にとって必要不可欠な企業グループを目指した工場全体のソリューション提案と、すぐそこまで来ている水素エネルギー社会への取り組みをご紹介します。

事業領域の拡大と繋がるミウラのトータルソリューション

活性炭技術で水処理が専門のJトップと業務提携

活性炭再生技術で排水処理・排水リサイクル事業を開展するJトップ株式会社と2018年11月に業務提携契約を締結し、国内外のお客様に対して水やガスなどの環境浄化システムの提供を行います。ミウラが保有するボイラ技術・製造力・強固な販売ネットワークや製品のパッケージ化ノウハウと、Jトップが保有する過熱蒸気で再生可能な活性炭処理装置・ノウハウ・研究開発力などの両社の強みを活かし、国内外での水やガスなどの環境浄化ならびにリサイクルを行い、環境保全と水の有効利用に貢献してまいります。

業務用洗濯機 大手のアイナックス稻本をグループ化

アイナックス稻本株式会社は業務用洗濯機・乾燥機等の、開発・製造・販売・メンテナンス・機械設備エンジニアリング等を行っており、国内における業界のトップランナーとして強固な事業基盤を築いています。国内市場トップシェアを有する事業領域へ参入、新たな事業軸の確立を目指します。業務用製品のラインナップ拡充を実現するとともに、さらなる工場全体のトータルソリューションをお客様に提供することが可能です。また、国内および海外の販売ネットワークを活用することで、アイナックス稻本が取り扱う製品の市場シェアの拡大を目指しています。



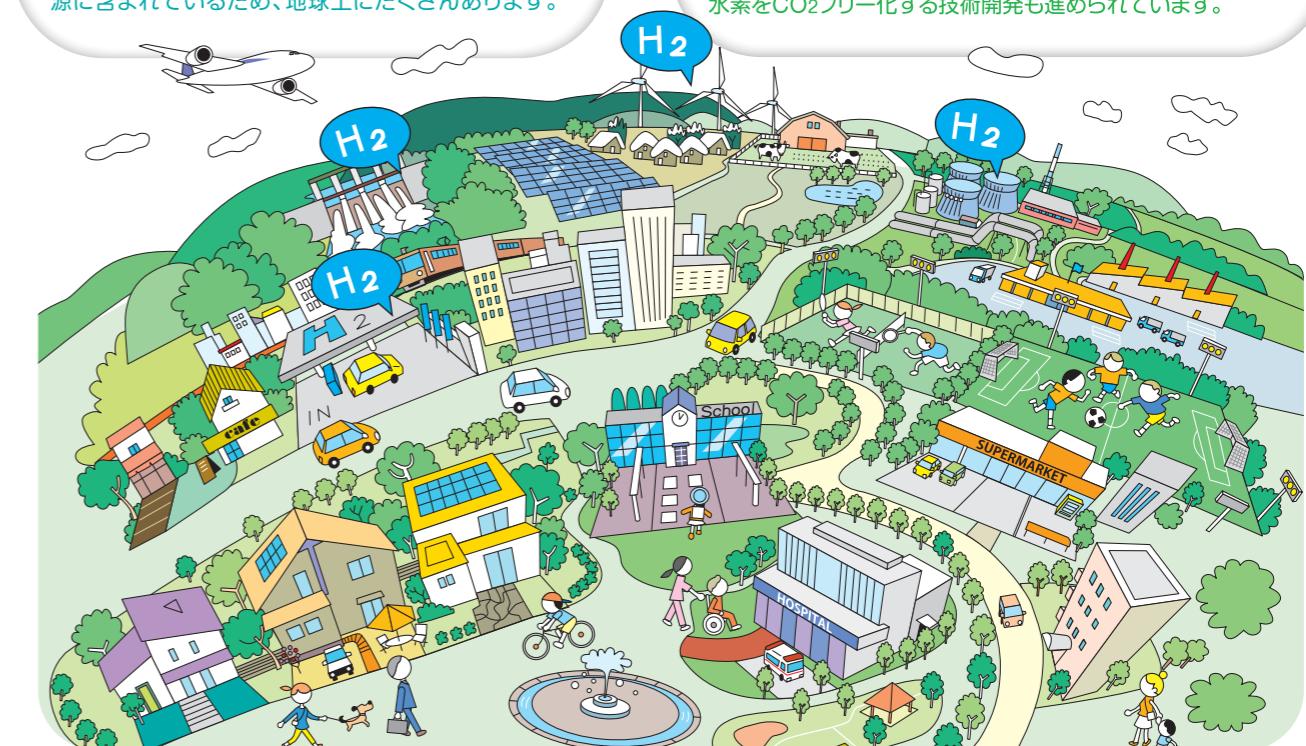
低炭素社会の主役「水素エネルギー」

來たる水素エネルギー社会へ対応するべく、水素関連商品の製品開発に積極的に取り組んでいます。2017年4月には運転時CO₂排出ゼロ、水素燃料の貫流蒸気ボイラを納入しました。同年10月には業務用4.2kW固体酸化物形燃料電池(SOFC)の販売を開始、また現在水素製造装置の製品開発、製造にも取り組んでいます。



水素ってなに?

水素は、私たちの周囲の空気と比べると、14分の1の軽さで、地球上で一番軽い気体です。また、無味・無色・無臭です。水素は気体で存在しますが、マイナス253℃まで冷やすと、液体になります。さらにさまざまな資源に含まれているため、地球上にたくさんあります。



水素エネルギーの特徴

主に3つの特徴があります。

- ①エネルギーを使う際にCO₂ではなく水を出すこと。
- ②地球上のさまざまな資源からつくることができること。
- ③エネルギーを水素にためめることができます。

この3つが今までのエネルギー問題の解決につながる重要なポイントです。



未来社会への貢献を目指しています

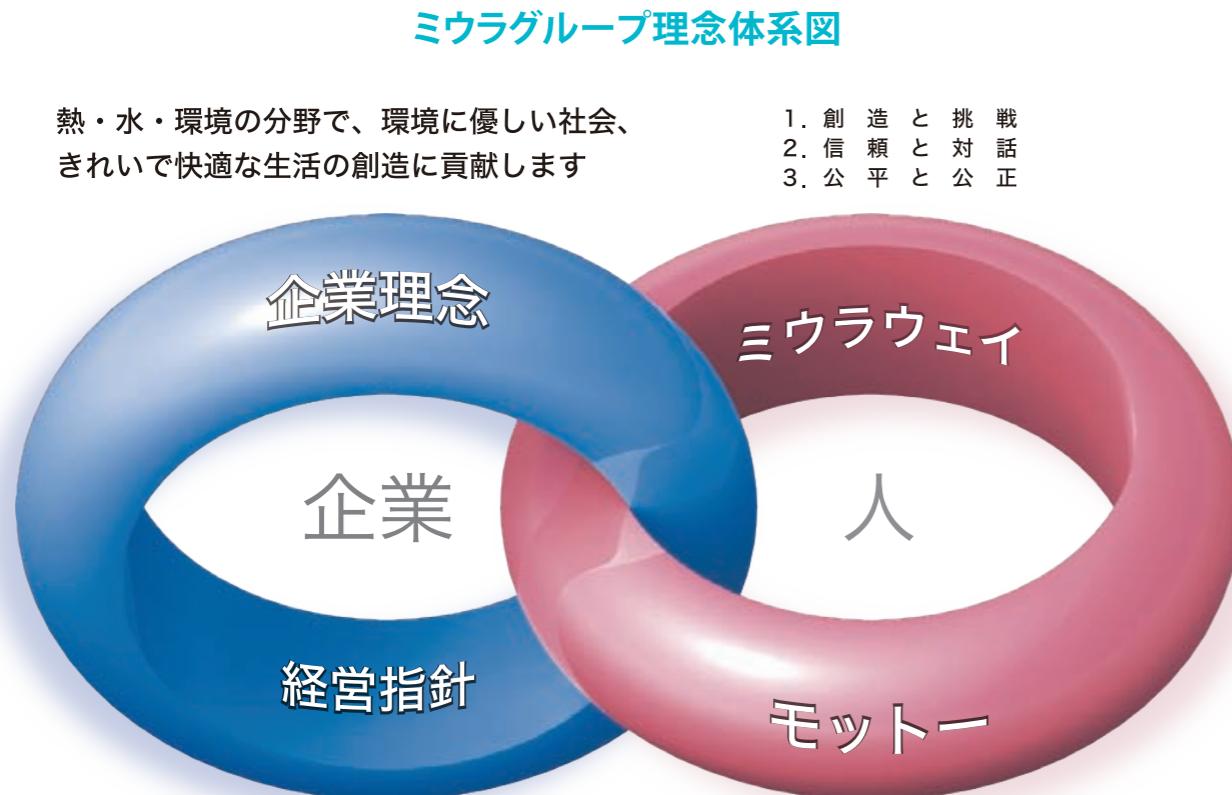
この半世紀で、世界の経済成長は6.5倍、エネルギー消費は5倍に増加しました。『パリ協定』の日本の目標である2030年に温室効果ガス26%削減は、各企業様の環境目標へと展開が進んでおり、「CO₂削減」が重要なテーマです。その大きな柱である水素社会の実現で、三浦工業でできることに取り組んでまいります。引き続き、ご支援のほど、よろしくお願いします。

新事業開発・熱利用事業本部
本部長 執行役員 井上一信



設立50周年に制定されたミウラグループ理念体系から約10年の間にグローバル化は進み、事業領域も拡大してきました。そのような状況を踏まえ、2019年5月に設立60周年を迎えたミウラグループでは理念体系図の見直しを行いました。100年企業を目指し、従業員一人ひとりが主体性を持ってチーム・ミウラで取り組んでいます。

企業理念の改定とブランディングの強化



- 1. グループの総合力でグローバル化を推進する
- 2. テクノサービスで世界のベストパートナー企業を目指す
- 3. 社員の潜在能力が最大限発揮できる職場作りを目指す

理念体系図 モチーフの意味

人(私たち)と、企業をリングで表し、その2つがしっかりとつながることで、無限“∞”の可能性を表現しています。
人(私たち)のリングは情熱、熱いハートを表現した赤、
企業のリングはコーポレートカラーである青(ミウラブルー)で表現しています。

企業理念とブランディングの浸透を図るために

創業者 故 三浦保によって5人からスタートしたミウラグループは今では5,700名を超える企業となりました。より一層、お客様に愛され、選ばれる企業となるように企業理念やブランディングを一新し、お客様目線で物事を考え、ひらめきを形にしてまいります。2019年度は、お客様に対しては「愛とひらめきミウラフェア」を実施し、従業員には全国14会場で

家族参加型のアニバーサリーパーティーを計画しています。従業員一人ひとりが仕事の相手に対して愛がある行動を示すことで、これからミウラグループは大きく成長していくことができると思っています。

代表取締役 副社長執行役員 COO 管理本部長

西原正勝

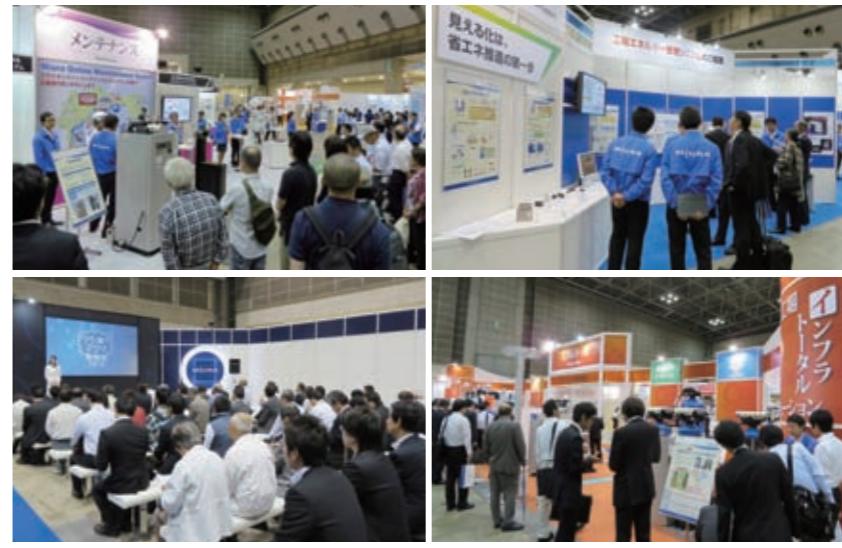


60周年「愛とひらめきミウラフェア」を全国5会場で開催

2019年8月より「愛とひらめきミウラフェア」世界へ、未来へ、+!を。と題したミウラフェアを6年ぶりに全国5会場で開催いたします。ミウラの企業理念である「熱・水・環境の分野で環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献します」に示すように、ミウラではさまざまな製品・サービスを、日本のみならず、世界へ展開しています。それらの取り組みをはじめ最新の省エネ技術や、ミウラ60年の歴史をご紹介しています。

■開催日程

	日時	場所
東京会場	8月 1日(木)～3日(土)	幕張メッセ 9ホール
大阪会場	8月29日(木)～31日(土)	インテックス大阪(2号館)
名古屋会場	9月12日(木)～14日(土)	ポートメッセなごや(第2展示館)
仙台会場	10月11日(金)～13日(日)	夢メッセみやざ(本館展示棟)
福岡会場	11月 8日(金)～10日(日)	西日本総合展示場(新館)



60th
世界へ、未来へ、+!を。

60周年記念ロゴマーク



新たな広告キャンペーンがスタート

「そのひらめきに、愛はあるか。」

2018年10月より、60周年に向けた新たな広告キャンペーンをスタートしました。誰からも愛され、選ばれる特別な存在になるための広告宣伝キャンペーン活動として、新聞広告、テレビCM、WEBサイトを中心にスタートしました。新しい広告宣伝のキャッチフレーズ「そのひらめきに、愛はあるか。」は、ミウラのコーポレートマークに込められた思いから生まれました。MIURAの「!」は、力強さの象徴である人(i)と独自技術のひらめき(!)を表現しており、ミウラでは、一人ひとりの「ひらめき」を何よりも大切にし、そのひらめきに「愛」を込めるができる人でありたいとの思いが込められています。

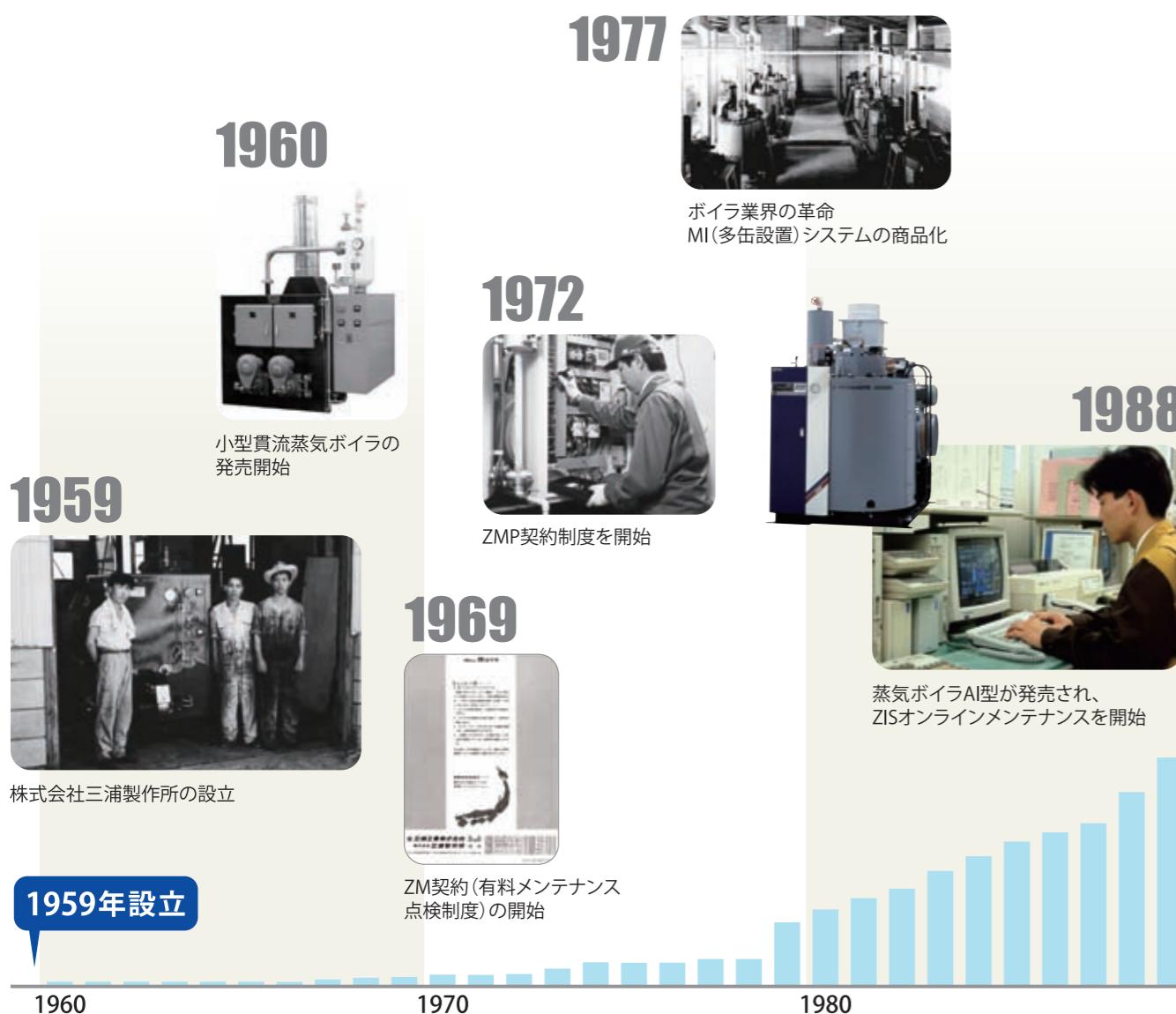


時代に応えるミウラのテクノサービス

私たちの暮らしは時代とともにめまぐるしく変化してきました。

ミウラの60年は、創業者 故 三浦保によって確立された「テクノサービス」の歴史です。

時代の要求に応える「技術」と「サービス」を磨き、100年企業へ向けて日々チャレンジを続けています。



ミウラを支え続けるメンテナンス

ビフォアメンテナンスに注力しています

メンテナンス事業の売上収益は国内外を含めて全体の約27%を占めており、ミウラグループを支える大きな柱となっています。また1,000名を超えるサービスエンジニアはお客様の製品が緊急停止することがないよう、これまでの経験から得た情報や収集したデータをもとに、異常が発生する前にメンテナンスを実施する「ビフォアメンテナンス」を実施しています。

常にお客様と接することで、工場内で起こっているお客様自身がまだ気づいていない問題点を見つけて省エネルギー改善の提案を積極的に実施しています。

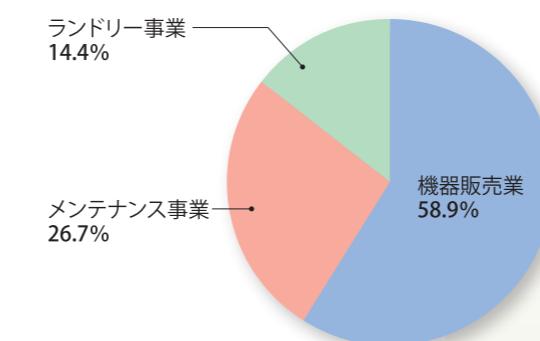


お客様の機器とオンラインで結び24時間365日のバックアップを行います。また、夜間休日も輪番制でサービスエンジニアが待機し、トラブルに対応いたします。

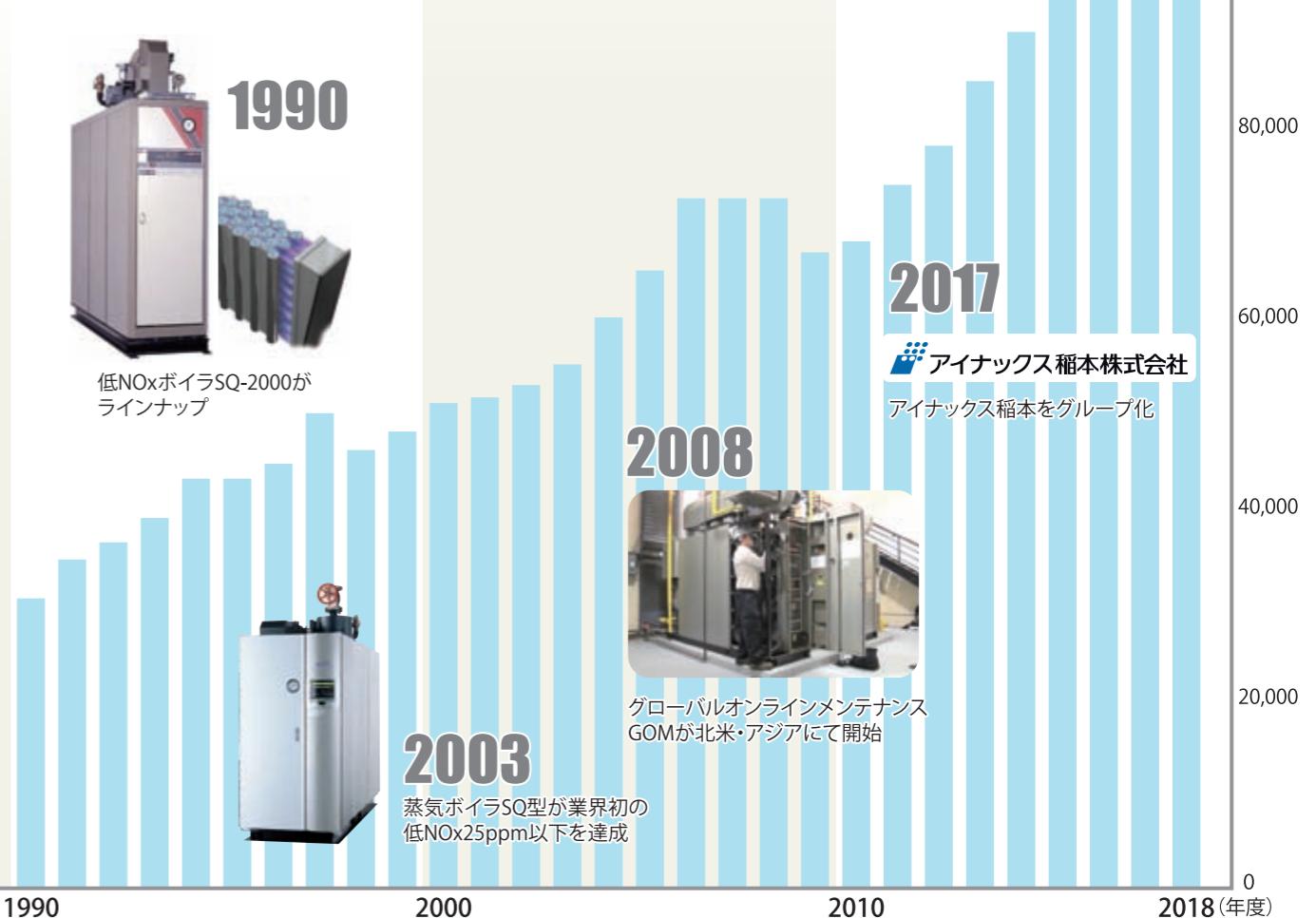
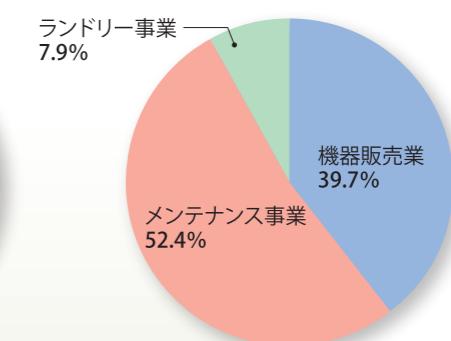
本社では機種ごとに試験を実施しています。従業員が成長するための教育プログラムも充実しています。

DATA 収益性の高いメンテナンス事業 ※2019年3月期 ミウラグループ全体

■売上比率



■利益比率



■VOICE

サービスエンジニアとして従事し始めた当初はベテラン社員との差を感じて悔しい思いをすることが多々ありました。ミウラの研修・教育制度や、現場での指導、経験を積み重ねることでサービスエンジニア11年目にして社内コンテストで1位を獲得することができました。

私達の主な役割は“ビフォアメンテナンス”

であり機器がストップすることが無いように計画的に出向・役務を果たすことです。時には緊急性を要する修理がありますがお客様の要望に沿った対応ができたときには感謝の言葉をいただく機会があり、そういう時には“やりがい”を感じることができます。

徳島支店 徳島メンテ 久米 忠厚



「世界一安くて良いボイラを創ろう」

—ミウラグループの歴史は、創業者の壮大な夢から始まり、“ひらめき”と“愛”で実現してきました。

そしてその思いは、現在、ミウラのトータルソリューションとして世界中へ展開しています。

昔も今も、“ひらめき”と“愛”がミウラグループの原動力です。

60周年という記念すべき年。

5,700名超という大きな家族になった今、これからもミウラグループが社会から愛される特別なブランドであり続けられるように、

「ひとり、ひとりの +! を。」というテーマで、

社会貢献していることや従業員一人ひとりが心がけている“ひらめき”と“愛”的言葉を集めカタチにしました。



こちらの内容の詳細は60周年記念特設サイトにて
ご紹介しています。
ミウラの60年の歩みを是非ご確認ください。

<https://www.miuraz.co.jp/60th/>





2018年度は、西日本豪雨や大阪・北海道での大規模地震、台風による多くの自然災害が発生しました。西日本豪雨では、ミウラグループの製造工場が被災し、未曾有の事態となりました。ミウラグループのBCP(事業継続計画)に基づく対応について紹介します。

BCP基本方針

ミウラグループの事業継続計画(BCP)では、従業員とその家族の安全の確保などに関する「基本版」、製品の生産および供給の継続などに関する「生産対策班」での活動を前提に、災害発生時に必要となる情報の事前準備を基軸として、被災地には拠点対策本部のバックアップ、無被害の地域には通常業務継続のためのリスク低減および復旧支援の対応策を準備・実施する「メンテ営業活動継続支援班」による実働活動に取り組んでいます。

ミウラでは、大規模災害が発生した深刻な状況においても、取引先との関係を継続し、メンテナンス、営業活動を途絶えさせない“お客様目線”的BCP運用を目指しています。

被災されたお客様の復旧に貢献

BCPプログラムの発動

2018年7月7日(土)午後6時30分、西日本地区で発生した記録的豪雨により、多くの人々が被災し、その中にはミウラのお客様も多数いらっしゃいました。ミウラグループの主要生産会社である三浦工機(愛媛県西予市)でも、周辺河川の氾濫により工場が床上浸水し、生産過程が混乱しましたが、ただちにBCPプログラムを発動し、被災翌日には経営層による状況確認と復旧作業を開始しました。また、同時に、お客様の状況確認も即日に開始し、的確な対応が始まりました。



2018年7月 西日本豪雨での被災地対応画面



被災されたお客様の様子

BCPプログラム組織

生産班 (主要生産品の早期生産体制回復)

被災時は1ヵ月後に60%生産回復を目指としたプランを策定していますが、西日本豪雨被災時は1ヵ月後に80%回復、45日後に100%回復とBCPを上回るスピードで、生産体制を復旧させ、発注のあったお客様への製品提供には影響はありませんでした。

メンテ営業活動継続支援班 (取引先との関係を継続し、メンテ・営業活動を途絶えさせない)

被災地区の取引先約2,400件を対象に、無償での修理対応(部品代を除く)方針を制定し、ほぼすべての取引先への確認と復旧支援をいたしました。

全体(BCP活動全体の推進)体制

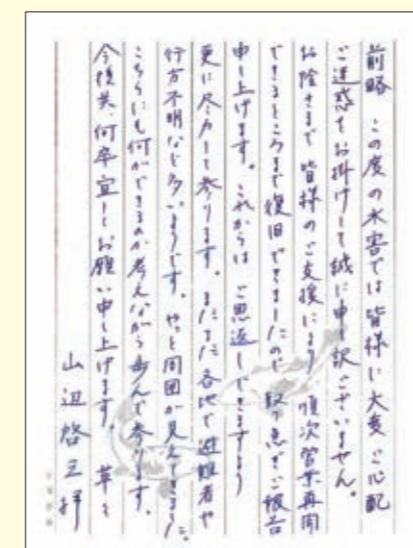
被災者支援のため、1,600名を超える従業員から集まった「義援募金」を従業員関係被災者にお渡しするとともに、ミウラグループとして愛媛県に対して、義援金をお渡しました。

VOICE

西日本豪雨災害では被災地が岡山、広島、高知、愛媛と広範囲にわたり、約50件のお客様がボイラなどの設備被害に遭われました。岡山県でも14件のお客様の設備が何らかの被害に遭われ、5件のお客様で設備入れ替えという被害状況でした。地元で昔ながらの素材製法にこだわった味噌、麹を製造、販売されている「まるみ麹本店様」でも設備が冠水、入れ替えなどで休業を余儀なくされました。復旧に伴い、ご丁寧なお礼状をいただきました。メンテナンスを行っている会社としてまさしく「メンテ冥利」に尽きる事例です。



岡山支店 倉敷メンテ
アドバイザー 乗松 良



お客様からいただいたお手紙
(岡山県総社市 まるみ麹本店様)

グループ会社(三浦工機株式会社)の復旧にも活用

今回、被災した三浦工機は、小型貫流ボイラのボイラ水管加工・節炭器、付帯品、ボイラ缶体製造を担っており、ミウラグループにとって重要な製造工場です。2018年7月7日に被災し、BCPプログラム発動のもと、ミウラグループ各社、協力会社の全面協力を得て、約2週間後の7月23日に生産を再開させることができました。長期間、使用不能となった水管絞り機や高周波溶接機の同機種が他のミウラグループ会社にもあり、臨時供給体制が取れることも、早期生産再開を可能としました。今後、さらにBCP対策を充実させ、グループ全体の生産体制向上を図ってまいります。



2018年7月11日 復旧作業の様子

VOICE

被災時、「絶望感」しかありませんでした。生産開始までは、1ヵ月以上かかると予想していましたが、猛暑の中、グループ各社から毎日約100名が応援に

駆け付け、泥だらけになりながら復旧作業を行い、また取引先や機械メーカーの方々の献身的なご協力のおかげで1ヵ月後には生産率80%を超えるほどまで復旧しました。

心身の疲労が溜まる中、三浦工機を元に戻すという行動力と誇りに思う気持ちで前を向いて乗り越えてくれた従業員、お客様最優先で復旧にご尽力いただきましたすべてのステークホルダーの皆さんに感謝を申し上げたいと思います。



近隣の河川の状況



浸水直後の工場内の様子



2018年10月 豪雨災害復旧お疲れ様会



三浦工機株式会社 社長
土居 正人

ZISオンラインセンターの発電機水害対策と停電対策

本社ZISオンラインセンター

従来よりメンテナンス事業の核となっているZISオンラインセンターの被災対策(地震・停電等を想定)として、発電機を設置しています。本社近郊の各種ハザードマップを確認した際、本社敷地に隣接する堀江新池が決壊した場合、2mの浸水の可能性があることが分かりました。この危険に対する対応として、発電機室の浸水対策を実施することとし、ZISオンラインセンターの被災対策を一層強固にしました。



本社機能バックアップ
の発電機



緊急時の組織体制(第2ZISオンラインセンター)

第2ZISオンラインセンター(栃木支店)

万が一、本社ZISオンラインセンターが被災し、機能を果たすことが難しくなった場合のバックアップとして、第2ZISオンラインセンターを栃木支店内に構えています。オンラインセンターの分散設置により、被災対策を施していますが、近年多発するさまざまな自然災害による停電対策として、栃木支店内に発電機を設置し、第2ZISオンラインセンターの機能維持に備えています。

環境マネジメント

〈EMSトップマネジメントコメント〉

2018年12月に開催されたCOP24において、パリ協定の実施に向けたガイドラインが採択されました。ミウラグループにおきましても、2018年度は「ミウラグループ ゼロ・エミッション チャレンジ2030」を策定し、独自の目標を掲げ活動をスタートしました。

①CO₂削減の課題に対しては、全グループ従業員参加型の草の根運動をはじめ、省エネ診断の実施により、工場や事務所の省エネを実現しました。その結果、2018年度も省エネ法による事業者クラス分け評価制度のSクラスを維持することができました。

②排出物量削減においては、多くの部門でペーパーレス活動を推進しました。使用済みOA紙を再生するための専用の装置を導入し、ミウラジョブパートナー^{※1}の従業員によって、さまざまな紙製品へのリサイクルを開始しました。

さらに、課題であった有害化学物質の非含有を保証するための「ミウラグループ グリーン調達ガイドライン」を制定し、その活動により2018年度はボイラ薬品について達成することができました。

ミウラグループはこれらを持続可能な開発目標(SDGs)の達成につながる取り組みと捉え、企業としての責任を果しながら、今後もさらなる推進に努めてまいります。

EMS^{※2}トップマネジメント
常勤特別顧問

福島 元司

^{※1}特例会社 ^{※2}Environmental Management System(環境マネジメントシステム)の略称です。

ミウラグループ環境方針

ミウラグループは、熱・水・環境の分野で、世界を舞台に、資源の有効利用と環境に優しい社会の創造のために、環境経営をより充実させ、持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指します。

■行動指針

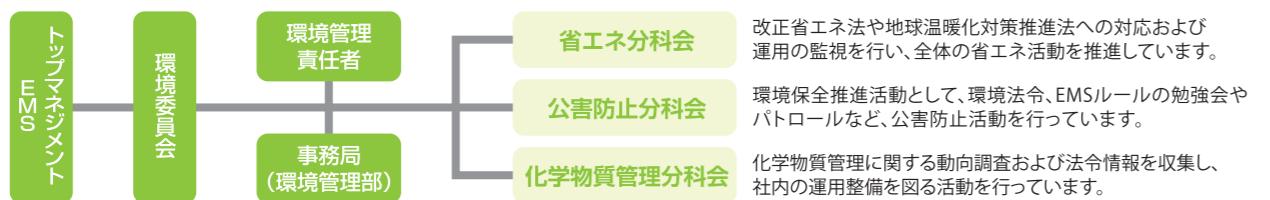
- 1 環境側面から環境に与える影響をとらえ、環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善を図ります。
- 2 環境目的、目標は、社員一人ひとりが身近に参加でき、その総和が環境負荷低減につながる活動を優先的に取り上げます。
- 3 環境側面に適用される環境関連法規およびミウラグループが同意する他の要求事項を遵守し、汚染の予防に努め、自然との共生を図ります。

- 4 事業活動から環境に与える影響のうち、次の項目を重点的に取り組みます。
 - ①省エネ・省資源・環境の改善に寄与する商品開発に努めます。
 - ②エネルギーの有効利用を図ります。
 - ③資源のリユースおよびリサイクルを通じて廃棄物の抑制に努めます。
 - ④化学物質管理の向上に努めます。

推進体制

環境マネジメントに関する課題の審議を行うため、環境委員会を定期的に開催しています。

■推進体制図



環境中期計画

環境中期計画は、環境方針に沿って4つの環境目的を掲げています。年度ごとに自己評価を行い、継続的に改善しています。

■環境マネジメントシステムと4つの環境目的

製品による環境貢献

環境に配慮した製品を開発する。

環境に対する配慮

汚染の予防と化学物質管理の推進を図る。

自然との共生

環境保全活動を通じ自然との共生を図る。

資源の有効利用

エネルギーの有効利用と排出物のリユース、リサイクルの促進、資源の有効利用を図る。

ミウラグループ ゼロ・エミッションチャレンジ2030

ミウラグループは2030年に向けて、事業活動および製品のライフサイクルにおいて、4つの視点で取り組み、CO₂、環境汚染物質、廃棄物、排熱など、すべての排出物を可能な限り最小化していくチャレンジを行います。

■目標

- ①2017年度国内CO₂原単位基準より13%低減する。
- ②2017年度愛媛県内工場の排出物量原単位基準より13%低減する



■2012(平成24)年度～2018(平成30)年度の計画

環境目的	取り組み項目／実施内容	自己評価 2018年度	関連するSDGs
製品による 環境貢献	廃熱、温水・ドレン水の活用に貢献できる製品を開発する。	<input type="radio"/>	
	電力・燃料・水の使用の削減に貢献できる製品を開発する。	<input type="radio"/>	6 安全な水とトイレ 7 エネルギーをみんなに 12 つくる責任 13 気候変動に 14 海の豊かさを 15 陸の豊かさを
	無薬注による水処理の促進に貢献できる製品を開発する。	<input type="radio"/>	
	河川・海洋汚染の抑制に貢献できる製品を開発する。	<input type="radio"/>	
環境に対する 配慮	ばい煙発生設備の定期的測定を実施し、大気の汚染防止に努める。	<input type="radio"/>	
	定期的な水質調査を実施し、水質の汚濁防止に努める。	<input type="radio"/>	
	定期的な騒音測定を実施し、騒音の発生防止に努める。	<input type="radio"/>	
	環境パトロールや製造機械の環境審査を実施し、緊急対応手順による監視を行う。	<input type="radio"/>	6 安全な水とトイレ 12 つくる責任 13 気候変動に 14 海の豊かさを 15 陸の豊かさを
化学物質管理の 推進を図る	グリーン調達ガイドラインの草案を整備する。	<input type="radio"/>	
	化学物質情報共有化の仕組みづくりをする。	<input type="radio"/>	
	毒物および劇物の運用監視のための内部監査を実施する。	<input type="radio"/>	
	工場周辺の清掃活動を実施する。(年4回)	<input type="radio"/>	6 安全な水とトイレ 12 つくる責任 13 気候変動に 14 海の豊かさを 15 陸の豊かさを
共生 自然との 環境保全活動を通じ 自然との共生を図る	工場周辺の河川清掃活動を実施する。(年2回)	<input type="radio"/>	
	工場内、屋上の緑地を維持管理する。	<input type="radio"/>	
	ISO14001認証サイト内のエネルギー使用量(原油換算)の削減のための省エネ施策を立案する。(毎年度向こう5ヵ年分)	<input type="radio"/>	7 エネルギーをみんなに 12 つくる責任 13 気候変動に 14 海の豊かさを 15 陸の豊かさを
	エネルギー使用量(原油換算)の原単位 ^{※1} 前年度比で年1%削減する。	<input type="radio"/>	
エネルギーの 有効利用を図る	工場再編、部門移動に応じた計測メーターの設置と計測を行う。	<input type="radio"/>	
	エネルギー管理要領および管理手順書に基づく運用管理を実施し、状況に合わせて見直しを行う。	<input type="radio"/>	
	工場内の排出物の総排出量 ^{※2} を原単位 ^{※1} の前年度比で年1%削減する。	<input type="radio"/>	12 つくる責任 13 気候変動に 14 海の豊かさを 15 陸の豊かさを
	リユース率、リサイクル率の向上を図る。	<input type="radio"/>	
資源の有効利用を図る	紙使用量の削減(使用量=購入量として、2013年度を基準年とし、原単位比より削減する)	<input type="radio"/>	
	※1 原単位:電力や燃料、その他のそれぞれの使用量(購入量)を売上げと事務所・工場の延べ床面積を乗じた値で除した値です。 ※2 総排出量:ISO14001認証サイトにおける事業活動で生じた廃棄物や有価物、並びにリユース物の合計値です。	<input type="radio"/>	

【自己評価の基準】 ○…計画通り実施できた。 ×…計画通り実施できなかった。

*1 原単位:電力や燃料、その他のそれぞれの使用量(購入量)を売上げと事務所・工場の延べ床面積を乗じた値で除した値です。

*2 総排出量:ISO14001認証サイトにおける事業活動で生じた廃棄物や有価物、並びにリユース物の合計値です。

汚染防止の取り組み

基本的な考え方

環境側面に適用される環境関連法規および当社が同意するその他の要求事項を遵守し、汚染の予防に努めます。とくに化学物質の管理体制を確立し、自然災害などの緊急事態でも周辺の環境を汚染しないように努めています。

海外現地法人各社の取り組み

ミウラグループ海外現地法人は、各国および地域の法規制を遵守し、環境汚染防止対策に取り組んでいます。

中和装置の導入で正常な水質を維持し、中国の環境保全へ貢献

〈三浦工業(中国)有限公司〉

中国では環境保全への対策が年々強化され、国家基準に基づく環境監査が実施されています。ミウラ中国では工場排水に関して、第三者機関による排水分析だけでなく自社商品の中和装置を導入し、連続監視を開始、排水監視の強化に努めています。排水は、生産状況に左右されることもありますが、中和装置導入後はpH値6.5～8.5(基準:6～9)となり、ほぼ一定の数値で安定を維持しています。また、中和装置は24時間のオンラインによる監視体制で、パソコンや携帯電話でpH値を確認することができ、異常が発生した場合は直ちに対応することができます。



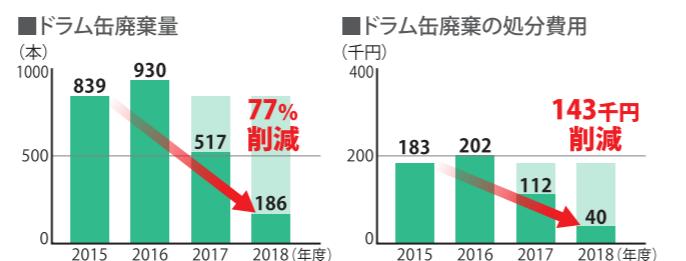
ドラム缶の廃棄量を削減することで、コスト削減・業務の効率化を実現

〈台湾三浦工業株式会社〉

ミウラ台湾では、2016年より、ドラム缶の廃棄量を削減するための活動をスタートしました。ドラム缶の使用量や用途を調査し、珪酸ソーダが全体の80%を占めていることが判明。改善活動として、珪酸ソーダの受け入れをドラム缶ではなく、タンクで貯蔵して対応するように改善。それにより、ドラム缶廃棄量の削減だけでなく、他の面でもいくつかのメリットが発生しました。

改善の成果

- ①ドラム缶廃棄量の削減 77%削減(2015年度比)
- ②ドラム缶廃棄処分の費用低減 143千円削減(2015年度比)
- ③珪酸ソーダ購入コスト低減
- ④薬品減量仕込みのスピードアップ
- ⑤原料倉庫の貯蔵スペースに余裕



省エネルギーの取り組み

基本的な考え方

限りあるエネルギーを、いかに無駄なく有効に利用していくかということについて、「ミウラグループの従業員一人ひとりが自ら考え、できることから行動する」を基本とし、より良い省エネ活動を展開しています。

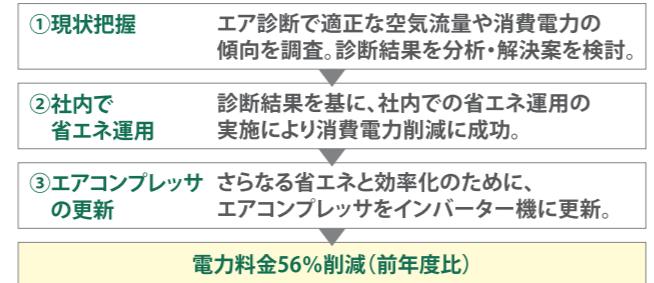
「環境・省エネ写真コンテスト」を実施

全従業員参加型の「環境・省エネ写真コンテスト」を実施。環境問題や省エネ活動をテーマにした写真に、撮影した時の思いやエピソードも添えて応募してもらいました。すべての応募写真を公開し、閲覧者が「いいね」で意思表示ができる仕組みを追加することで、関心度の高い企画となりました。



自社工場のエアを省エネ運用でコスト削減

自社工場のエアコンプレッサの省エネ診断を実施し、省エネ運用改善することで電力料金を56%削減(前年度比)することができました。ミウラのエア診断は、測定値から気づかなかつた問題点を調査し解決案を見出すことができます。今回の診断では、①現状把握→②社内で省エネ運用→③エアコンプレッサの更新の3段階で省エネ化・コスト削減に成功しました。



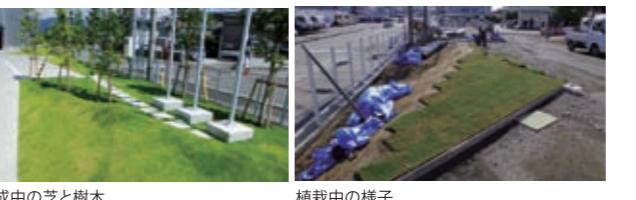
自然との共生

基本的な考え方

地球環境との調和を目指した環境活動として自然との共生に努めています。周辺地域の環境保全や、もっと広い視野で「従業員一人ひとりが身近に参加でき、その総和が環境負荷低減につながる活動」に取り組んでいます。

ショールーム棟緑地帯、芝・タマリュウの育成

ショールーム棟の建設に伴い、外周外構部分の緑地にヒメコウライ芝・タマリュウの植栽を企画段階からミウラグループ従業員が参加しました。日当たり等を考慮し、芝480m²タマリュウ60m²の植栽位置を決定、植栽・散水・施肥・芝刈り等を行い育成に取り組んでいます。芝生の姿は来社されるお客様や従業員の心の癒しに活かされています。地域の緑化と環境負荷の低減にも役立っています。



芝の有効活用による憩いの場作成

北条緑地公園に植樹した桜並木の中に、憩いの場を作成しています。ショールーム棟植栽施工時に廃棄処分となった切芝約35m²の有効活用を目標に、ミウラグループ従業員が土壌耕運から整地、芝張り、散水を企画して芝を育成しています。近隣の方々にも憩いの場として利用していただけるよう、周辺にはベンチやテーブルを設置しました。桜の季節には開花も多くなり、周辺地域の春の風景としても楽しんでいただいているです。



省資源の取り組み

基本的な考え方

「混ぜればゴミ、分ければ資源」の考え方から、廃棄物を有効な資源と捉え、有効活用を図ることを目的にしっかりと分別を行い、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を展開しています。

作業用軍手・手袋のリユース活動

2015年度よりこれまで使い捨てだった製造グループで使用している軍手・ケミソフトをグループ会社であるアイナックス稻本の業務用洗濯機を導入して特例子会社ミウラジョブパートナーで洗濯を行っています。年々、この活動が定着しており、2018年度の年間の実績は約10,800双(重量で約580kg)の洗濯・リユースを行うことができ、社内から排出される焼却ゴミを削減しています。



廃棄紙をリサイクルしてオフィスで活用

SDGsの目標達成に貢献できるミウラグループの取り組みとして、今まで破棄していたコピー用紙類を再利用して、新たに再生紙を作る機械「PaperLab^{*}」を導入し資源の有効活用を実施しています。2019年度の目標は、A4コピー用紙約550ケース分を目安に稼動をさせる予定です。

4月からは関係部署と連携を図りながら、本社機能のある堀江地区から破棄される用紙を回収・仕分け作業を行い再生紙の生産を開始。でき上がった用紙は、名刺やノート類等の販促物に積極的に再利用しています。
※PaperLabはセイコーエプソン株式会社の製品です。



コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

ミウラグループは、持続的な企業価値向上の実現に向けて、ステークホルダーと良好な関係を築き、経営の透明性と効率性を追求する管理体制、自立的なCSR活動体制を整えることが重要と考えています。

現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要

取締役、取締役会、執行役員会

2019年3月現在、取締役は15名（うち監査等委員5名）で構成され、取締役会は経営の意思決定を行うとともに、代表取締役および業務執行取締役の業務執行の適法性・妥当性について監督を行っています。執行役員会は、取締役会で決定した基本方針に基づき業務執行に関する事項を協議・決定し、スピーディな業務執行に努めています。

監査等委員、監査等委員会

2019年3月現在、監査等委員は5名で構成され、うち3名が社外取締役です。監査等委員会は、策定した監査方針等に基づき、取締役会や社内の重要な会議に出席するほか、本社、主要な事業所・子会社の調査等を実施し、代表取締役その他の業務執行者に対する監査・監督を行っています。

会計監査人とは連携を密にして、効率的な監査を実施するよう努めています。

指名委員会、報酬委員会

2018年から任意の指名委員会・報酬委員会を設置しています。両委員会は代表取締役3名で構成されており、社外取締役は含まれていませんが、決議された事項は独立社外取締役が過半数を占める監査等委員会で承認を得てから取締役会で審議するため、独立社外取締役の適切な関与・助言を得られる仕組みとなっています。

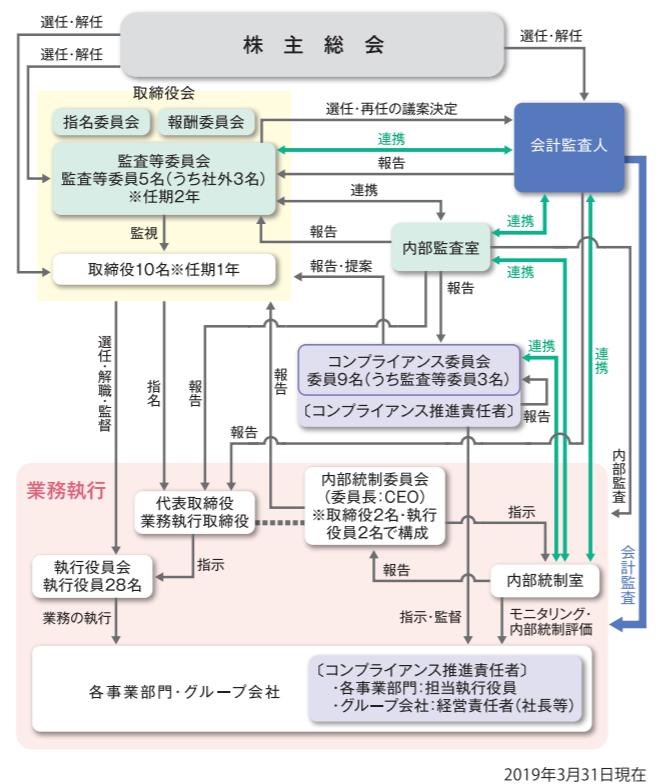
内部監査

内部監査室（スタッフ5名）は、子会社を含めた各部門の資産、会計、業務等の全般に関して経営方針、関係法令、社内規程等に準拠して適正に行われているか、定期的に内部監査を実施するとともに、必要に応じて改善・提言等を行っています。監査結果は、代表取締役社長執行役員CEO、業務担当取締役および監査等委員会に報告します。

会計監査

ミウラは、会社法および金融商品取引法に基づく会計監査人に「有限責任監査法人トーマツ」を選任し、適正な監査を受けています。また、連結子会社で一部の海外現地法人では、ミウラ会計監査人以外の会計事務所の監査、レビューを受ける等で、実効性のある会計監査に努めています。

■コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制システム等に関する事項

内部統制システムに関する 基本的な考え方および整備状況

経営戦略や事業目的を組織として適正かつ効率的に達成するため、業務の効率化を高め、情報の信頼性を確保するとともに法令遵守の体制を構築していくことが内部統制システムの基本であると考えており、法令を遵守することはもちろん、企業倫理に照らして誠実かつ公正に業務を遂行することが重要であると認識しています。この方針に基づき、取締役および執行役員等で構成される「コンプライアンス委員会」を設置し、「ミウラグループ企業行動規範」の周知徹底に努めています。

また、従業員に対して社内のほか社外弁護士を相談窓口とする内部通報制度を導入し、社内不祥事情報の早期収集を図っています。

反社会的勢力に向けた 基本的な考え方および整備状況

「ミウラグループ企業行動規範」のなかで、反社会的な活動を行う団体や勢力とは一切の関係を持たないことを明記しています。また、「反社会的勢力対応要領」を制定し、この要領に基づき、所轄の警察署や顧問弁護士の指導を仰ぎながら、企業として毅然とした態度で臨んでいます。「ミウラグループ企業行動規範」の詳細は本報告書の3～4ページに記載しています。

コンプライアンス、リスクマネジメント

基本的な考え方

コンプライアンスとリスクマネジメントはコーポレート・ガバナンスを支える基盤であり、切り離せない両輪であるという認識のもと、全従業員に「ミウラグループ企業行動規範」を浸透し、企業を取り巻くあらゆるリスクに対して公正で適正な対応を進めています。

コンプライアンス委員会の設置

ミウラグループのコンプライアンス体制の確立、維持、向上を目的としてコンプライアンス委員会を設置し、当グループ内各社の取締役会等に対し諮問等を行っています。

情報の保護・情報セキュリティの取り組み

お客様から信頼される企業であり続けるために、お客様からお預かりした情報資産（個人情報や設備情報等）、ならびに保有する情報資産（営業上の秘密やノウハウ、インサイダー情報、技術情報等）は、あらゆる脅威から保護し、適正な管理・運用を確保することが求められます。ミウラグループでは、すべての役員と従業員が「情報管理規程」で定める情報セキュリティ対策を正しく理解し遵守し、日々の業務の中で情報資産の保護を最大限に配慮しながら企業活動を展開しています。

セキュリティ対策の継続的な強化

「情報セキュリティ対策」として情報管理規程を定め、セキュリティ管理体制を明確にし、定期的な見直しと対策強化を継続的に行ってています。具体的には、専門機関によるホームページのセキュリティ診断などを行っています。

従業員教育を毎年実施

情報機器を取り扱う全従業員に対して継続的に情報セキュリティに関する教育・注意喚起を実施し、その重要性、情報の適切な取り扱いや管理について周知徹底を図っています。また教育資料についても定期的に見直しを実施しています。

個人情報保護

お客様からの大切な個人情報に関しては、三浦工業のウェブサイトに記載した「個人情報保護ポリシー」のもと、取り扱いの規程を整備しています。また、保護状況については内部監査等による継続的な見直しを行っています。

安全保障輸出管理への取り組み

我が国では、国際的な平和および安全の維持の観点から、軍事転用可能な貨物や技術が、国際社会の安全を脅かすような国家やテロリスト集団など懸念活動を行うおそれがある者に渡ることを防止するために「外国為替及び外国貿易法」が定められています。

三浦工業は、「国際的な安全と平和を阻害するおそれのある取引に関与しない」を基本方針として「安全保障輸出管理規程」を定め、輸出許可の要否を判断するための貨物・技術の該非判定と取引審査、定期監査、教育訓練、グループ会社への指導などを行い、法令を遵守した適正な輸出管理に努めています。

知的財産の保護

第三者の知的財産権を尊重し、侵害しないように努めるとともに、自社の知的財産権の確保を積極的に行い、有効に活用する活動に取り組んでいます。

①知的財産権の尊重

第三者の知的財産権を侵害する事がないよう、先行技術等の調査を十分に行い、その結果を反映させた新技術・新製品の研究および開発を行っています。

②知的財産活動

研究・開発の初期段階から事業部門と知的財産室とが連携し、発明の抽出や特許等の権利化を戦略的に行い、技術の保護、および知的財産の強化を行っています。

③従業員教育

知的財産を尊重し、保護・活用する教育を、集合教育やe-Learning等により継続的に行っています。

緊急時の対応訓練

さまざまな災害が発生するなか、定期的に実施する防火避難訓練や防災訓練のほか、傷病者発生時に確実な応急処置を施せる技術を身に付けるため、消防署の方々を講師に迎えての普通救命講習やAEDメーカーによるAEDの使用訓練を実施しています。今後も不測の事態が発生した際に一秒でも早く適切な処置がとれるよう定期的に講習を開催していきます。



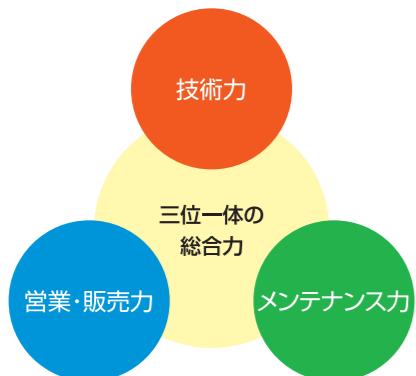
お客様への責任と行動

基本的な考え方

我々は、「ミウラグループ企業行動規範」に則って行動し、お客様に役立つ技術を磨き、製品やサービスにおけるすべての「品質」を高め、信頼にお応えします。

お客様の問題解決(三位一体の総合力)

ミウラグループは、技術・営業・メンテナンスの各部門が緊密に連携して一体的に動くワンストップサービスを何よりも大切にしています。この三位一体の連携でお客様に満足をお届けしています。



品質マネジメント宣言の基本理念の実現に向けて

『ミウラグループに対するお客様の信頼は、製品やサービスの品質の上に成り立っている。ここにお客様最優先・安全最優先を宣言し、全従業員が危機感を持ち、テクノサービス力を強化しそれぞれの部門でその役割を積極的に果たす。』を全うするための活動事例を報告いたします。

●リスクアセスメント研修

ミウラグループの製品は安全性を高めるためにリスクアセスメントを実施しています。この実施が適正に行えるように、主に技術者向けにリスクアセスメント研修を実施しています。この教育では、他社や自社の事故事例から安全性の重要性を認識し、適切な安全設計ができるようにしていくことを目標としています。

●特注設計プロセスチェック

特注設計においては、お客様の要求に基づく設計がなされます。要求がさまざまなため、設計品質にバラツキが生じやすくなります。そこで、そのリスクが最小となるようなプロセスで実行されているかどうかをチェックしています。

技術力

省エネルギーセンターが主催する平成30年度「省エネ大賞」製品・ビジネスモデル部門においてクローズドドレン回収装置HXシリーズが「省エネルギーセンター会長賞」、日本ボイラ協会主催「第56回全日本ボイラー大会」において小型貫流ボイラSQ-1200ZLが「技術賞」、日本産業機械工業会主催「第44回優秀環境装置表彰」においてバラスト水処理装置HKが「日本産業機械工業会会长賞」をそれぞれ受賞、ミウラの技術力の高さが評価されています。



第44回優秀環境装置表彰式(授賞の様子)



営業・販売力

活性炭技術で排水処理・リサイクルを展開するJトップ株式会社と2018年11月に業務提携契約を締結しました。ミウラの高品質・高効率ボイラと、Jトップの活性炭再生技術が融合した蒸気再生型活性炭ろ過による低環境負荷型のシステムで多くのお客様に次世代の環境浄化システムを提供します。

メンテナンス力

クラウド、LTE通信、M-NETのコラボにより、低価格でエネルギー管理機能の提供が可能となるMEIS CLOUDサービスを開始しました。ボイラをはじめ、多くのミウラ製品の運転管理が可能でエネルギーデータの自動集計や、グラフツールによる見える化が可能です。お客様にご用意いただくのは通信装置EUとインターネット接続環境、MEIS CLOUDの申込書だけです。

株主・投資家への責任と行動

基本的な考え方

企業価値の最大化を目指して効率性の高い経営に努めるとともに、株主や投資家の皆さまが必要とされる企業情報を適正かつ適時に開示し、対話を通じて経営の透明性を高め、開かれた企業を目指します。

ディスクロージャーポリシーと適正な情報開示

投資判断に影響を与える情報については、法令遵守のもと適時かつ公平な情報の開示を継続的に行ってています。また、ミウラをご理解いただくための情報についても、重要度や緊急性に応じて、ニュースリリースなどにより積極的かつ速やかに開示しています。

株主・投資家とのコミュニケーション

株主総会

2018年度の株主総会は、2018年6月にオープンしたショールーム内で開催し、閉会後には株主の皆さまに、ミウラの歩みや進化するトータルソリューションの取り組みなどを見学いただきました。



株主総会



ショールーム入口での受付

個人投資家向け説明会

個人投資家の皆さまとのダイレクトなコミュニケーションの機会として、野村證券株式会社様が主催する個人投資家向け会社説明会、さわかみ投信株式会社様が主催する運用報告会に参加しました。会場では、ミウラの軟水器による「手洗い体感」を開催し、軟水と水道水で手を洗い比べ、軟水のしっとり感を体感いただきました。



さわかみ投信(株)様主催運用報告会



手洗い体感

機関投資家、アナリスト向けユーザーへの見学・説明会

機関投資家、アナリストの皆さんに参加いただき、田町スマートエネルギーセンター(東京)にて「地冷(地域冷暖房)システム見学・説明会」を開催しました。地冷システムとは、冷水・温水・蒸気などを1カ所(エネルギーセンター)でまとめて製造し、一定地域内へ導管を通じて供給するシステムです。これにより、省エネとCO₂の削減が可能になります。プラント内で稼動するミウラの貫流ボイラ、排ガスボイラを実際に見学いただくことで、ミウラの環境貢献企業としての取り組みを実感していただきました。



田町スマートエネルギーセンター地冷システム見学会

株主に対する利益還元

利益配分を重要な経営課題として認識し、経営基盤の強化を図りながら、連結配当性向30%を目指して、安定的な配当の継続を基本としています。株主の皆さまへの長期安定的な収益の確保と積極的な利益還元に努めてまいります。



愛媛が誇る「今治タオル」と「砥部焼」

IRツールの発行

機関投資家向け決算説明会での登壇者の発表内容について、A4ノート形式で上段へ資料を、下段へ説明をまとめ、ホームページに掲載しています。また、株主様へ業績報告、経営戦略、社内トピックスなどを記載した「株主通信」を中間・本決算期に郵送しています。

ウェブサイトでの情報公開

ミウラグループについてご理解を深めていただけるよう、ホームページを通じて情報を発信しています。財務情報、非財務情報を、必要に応じて英文版も掲載し、幅広くご理解いただける体制を整えています。

取引先への責任と行動

基本的な考え方

購買部門は企業の社会的責任を果たすために、取引先との相互理解・法令、社会規範遵守を積極的に推進しています。さらに取引先から供給された優れた資材をより良い製品づくりに活かし、お客様へ提供していきます。

調達の基本方針

オープン

日本国内だけでなく、広く海外の企業に対しても門戸を開き、優れた製品を有し、良好なサービスを得られる企業との取引を求めていきます。また常に新しい企業との購買取引を心掛けています。

公正

取引先の選定は、製品の品質・性能・価格・納期の確実性、アフターサービス体制、および経営状態などを総合的に判断し公正に選定します。

相互信頼

公正な取引を通じて、取引先の皆様との相互理解と信頼を深め、相互利益のために信頼関係を築き上げていくよう努めています。

法令の遵守

弊社との購買取引にあたって、弊社と取引先の皆様の双方が、国際社会の関連法規ならびにその精神を遵守すべきであると考えます。

社会への貢献

弊社と取引先の皆様が購買取引を通じて、ともに社会に貢献する良きパートナーとなるべきであると考えます。

「調達の基本方針」の詳細はウェブサイトでご覧いただけます。
<http://www.miuraz.co.jp/>

購買手続き

新規取引を希望の取引先に対して、受け入れ態勢を整え、国内外や地域の差別なく公正に評価し選定を行います。

● 購買手続きの流れ



PC交流会(加工プロセス改善活動)

主要協力会社・設計・調達におけるPC交流会活動において、加工改善による加工時間の削減を電力消費量の削減に換算し、協力会社の部品製作におけるCO₂排出量の抑制に取り組んでおり、その成果を経営者に定期的に報告しています。



Web購買システム

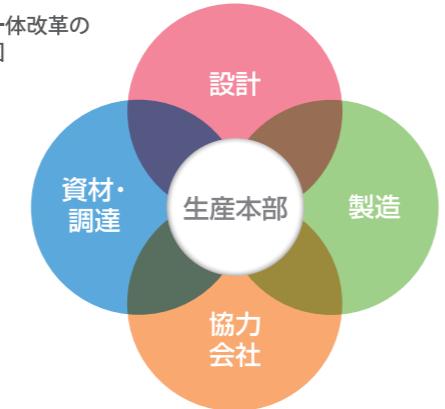
2016年度から運用を開始したミウラWeb購買システム(電子データ交換による商取引)も順調に稼動し、取引先とのより円滑な受発注が実現できています。また、新しく取引を開始させていただく場合も、相互のメリットを享受していくだけ、取引開始時点からの運用に協力をいただいています。

注文伝票が郵送から電子データ交換に変更されることで、正確かつスピーディな発注情報の伝達が実現され、データの有効活用も推進され、相互の働き方改革にも少なからず貢献できているのではないかと自負していますが、まだまだ改善すべき点も多々あると考えています。今後は、さらなる進化を目指して継続的な改善を行います。

四位一体改革の推進

ミウラグループは世界連携で四位一体(設計・グループ製造会社・資材調達・協力会社)の生産改革を展開し、高品質・低コスト・短納期を実現する生産体制の構築に取り組んでいます。

● 四位一体改革の概念図



従業員への責任と行動

基本的な考え方

ミウラグループは「働きがいのある、働きやすい職場づくり」をモットーに、従業員の人格・個性を尊重し、安全な職場環境と良質な労働条件を提供するとともに、人財の育成と活用を推進しています。

健康経営

従業員の心と体の健康保持・増進のために、三浦グループ健康保険組合との共同事業として、「コラボヘルスプロジェクト」に取り組んでいます。毎年実施している「健康ウォークラリー」では、97チーム(365名)が参加し、85チーム(327名)がチーム目標を達成しました。

病気を抱えながらも働く意欲や能力のある従業員が、適切な治療を受けながら安心して生き生きと働き続けられる職場を目指して、2018年10月に三浦工業が事業者による基本方針「愛媛"治療+仕事=両立"企業宣言」を表明し、愛媛県労働局のホームページに宣言企業第一号として掲載されました。

今後も従業員の安全・健康を第一に健康経営に積極的に取り組みます。



労働安全衛生

ミウラグループでは、事業活動のあらゆる面において安全・健康を第一と考え、さまざまな安全衛生活動に取り組んでいます。2018年度からは、4月20日を「安全を考える日」と設定するなど一人ひとりの安全意識を高め、労働災害が発生しない組織づくりを推進していきます。

業務改善活動

ミウラグループでは、業務改善活動として毎年チーム・ミウラ活動や小集団活動を行っています。チーム・ミウラ活動では、2017年度よりこれまでの部門ごとの全員参加型からリニューアルし、「自由で主体的な取り組みを支援する活動」を主旨に、部門の垣根を越え同じ思いを持った有志による活動として毎年10組ほどのチームが参加。ミウラを大きく変えるため活動に取り組んでいます。また、活動最後に活動成果が優秀なチームには社長賞を授与する表彰などを行っています。



人財育成

ミウラグループの教育研修は、自ら行動できる自立型従業員への育成をもとに、スタッフ、営業、メンテ、製造など7つの分科会に分かれ、毎年ニーズに合った教育内容を検討しています。また、グローバル化に向けてTOEICテストや通信教育などの語学力に加え、国際感覚を磨くためMiura Global Talent Schoolを開講するなど、海外で活躍できる人財の育成にも取り組んでいます。1年間に開催する研修は300回を超え、延べ5,000名以上の従業員が参加し、近年では外部講師を取り込んでいくなど従業員一人ひとりのさらなるスキルアップにつながるよう取り組んでいます。



地域社会への責任と行動

基本的な考え方

ミウラグループでは芸術や文化・学校行事の支援、環境の保全・地域活動への協力、その他のボランティア活動などの分野において、地域との共存・共栄を図りながら、地域に役立つ社会貢献に取り組んでいます。

地域イベントへの貢献

ミウラグループでは本社のある愛媛県や松山市が企画するイベントに積極的に参加することで、地域との共存・共栄を図りながら、従業員に対してはCSR活動への理解と意識向上を目指しています。

松山まつり 2018年8月



130名を超える従業員が参加

愛媛マラソン 2019年2月



足湯や北条工場お接待所でおもてなし



スポーツ協賛

地域社会に役立つ社会貢献活動の一環として本社がある愛媛県に関わるプロスポーツや、県内出身の選手に対してスポンサー企業として協賛しています。



愛媛FC
(サッカー)



愛媛オレンジバイキングス ©EHIME ORANGE VIKINGS
(バスケットボール)



愛媛マンダリンパイレーツ ©S.M.E.
(野球)



華谷和生選手
(プロテニスプレーヤー)



ショールーム(ミウラ愛ランド)内に展示

愛媛大学大学院農学研究科の寄附講座

愛媛大学環境産業研究施設「三浦記念館」に寄附講座を開設し、環境に関する分析・対策技術の研究開発と教育を通して、地球環境の保全や循環型社会の構築、人材育成に貢献することを目指しています。

具体的には食品や水、土壤などに含まれるPCBや残留農薬等の化学物質の新たな分析技術、室内環境のモニタリング技術などの研究開発に産官学連携で取り組んでいます。



愛媛大学環境産業研究施設「三浦記念館」

県主催の「実業家×芸術家 人間・三浦保」企画展への協力

2018年12月、愛媛県生涯学習センター内 愛媛人物博物館主催「実業家×芸術家 人間・三浦保」が開催されました。愛媛人物博物館は、愛媛県にゆかりのある偉人を顕彰し、その偉業を展示、紹介する施設です。本企画展の開催に際しては博物館からのご依頼により協力させていただきました。企画展を通じ、社内外の皆さまに改めて創業者 故三浦保について知っていただくよい機会となりました。



三浦保企画展テープカットの様子

ミウラート・ヴィレッジ(三浦美術館)

ミウラート・ヴィレッジは、従業員や地域の方々に、さまざまな美術品を鑑賞して楽しんでいただこうと、創業者 故三浦保の強い意思で建設されました。毎年恒例のお花見会では、2日間で約2,000名ものお客様に参加いただきました。2018年度から新たな試みの継続企画展として、愛媛出身で将来有望な芸術家をご紹介する「Up and Coming展」を開催。これまで以上に愛媛の芸術の発展の一助となることを目指して活動していきます。



Up and Coming展のギャラリートークの様子



お花見会の様子

2018年度「愛媛マイスター」認定

2018年11月28日愛媛県職業能力開発促進大会で、三浦マシン(現 三浦マニファクチャリング)の上松賢也さんが金属溶接分野の「愛媛マイスター」に認定されました。この制度は、愛媛県内のものづくり産業において卓越した技能・技術を有していること、技能コンクールの受賞歴や技能の普及に尽力した実績があること等を考慮して、優れた指導力のある方を愛媛県知事が認定するものです。2018年度はさまざまな職種から5名が認定され、ミウラグループでは同分野で2人目の認定となりました。

ミウラグループでは、経験豊富な熟練溶接士が講師となって社内外で溶接教育を行っています。「三浦溶接道場」の設備を活用した社員研修、主要協力会社への出張指導、「全国高校生溶接技術競技会-溶接甲子園-」での実演や指導など、溶接技能の向上と若手の裾野を広げる活動に積極的に取り組んでいます。



愛媛マイスターに認定された上松賢也さん

太陽光パネルの運用スタート

2019年1月、愛媛県伊予郡松前町に「三浦工業株式会社松前太陽光発電所」を開所いたしました。ミウラでは遊休地の有効活用策として、自然環境に優しい再生可能エネルギーである太陽光発電設備を導入しました。また、今回開所した松前太陽光発電所のほかに松山市中西外にも「北条太陽光発電所」を設けています。今後も環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献する企業として持続可能な社会の実現に積極的に取り組んでいきます。



太陽光パネル

■財務指標

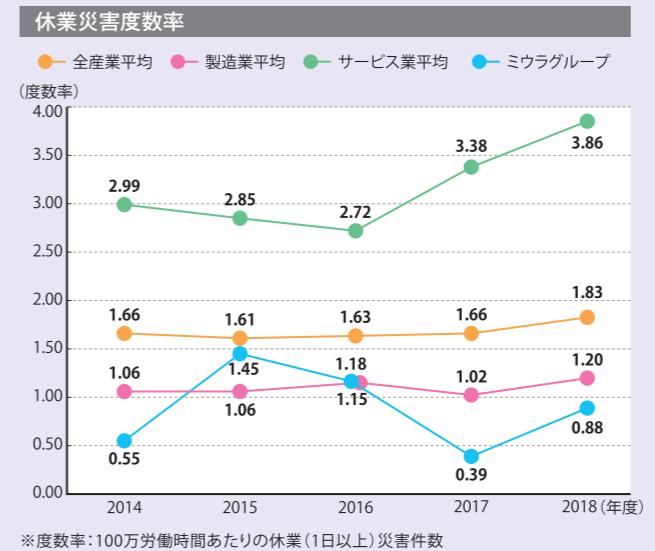


2017年度第1四半期連結会計期間より国際会計基準「IFRS」を導入しました。2016年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株あたり配当金」を算定しています。

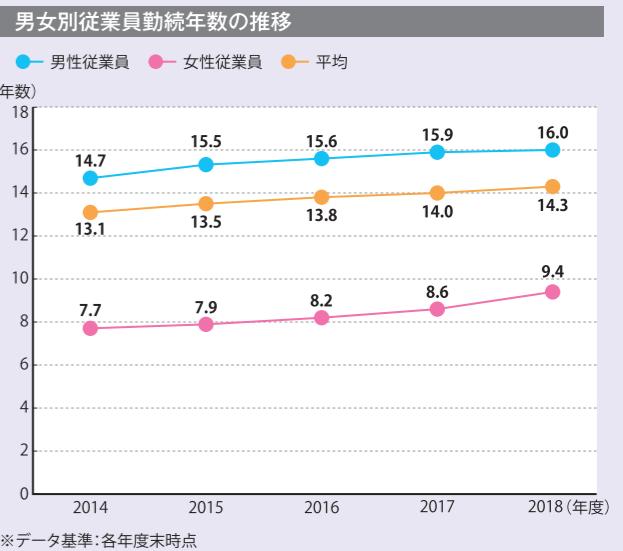


2014年10月1日付けで普通株式1株につき3株の株式分割を行っています。2011年度と2017年度の連結会計年度の財務数値については、IFRSに準拠して表示しています。

■従業員関連データ



※度数率: 100万労働時間あたりの休業(1日以上)災害件数
※全産業平均、製造業平均、サービス業平均データ出所:厚生労働省「労働災害動向調査」
※参考のため、機械修理業が該当する「サービス業(他に分類されないもの)」の度数率もグラフの中に取り込んでいます。



※データ基準:各年度末時点
※三浦工業

■総排出量の削減

2014年度を基準年として、集計範囲は、ISO14001認証サイト(本社地区および北条地区)としています。



※総排出量:国内のISO14001認証サイトにおける事業活動で生じた廃棄物や有価物、並びにリユース物の合計値です。
※原単位:総排出量やリユース量、OA紙購入量を売上げと事務所・工場の延べ床面積を乗じた積で除した値で、2014年度の値を100%として比較しています。



※原単位:総排出量やリユース量、OA紙購入量を売上げと事務所・工場の延べ床面積を乗じた積で除した値で、2014年度の値を100%として比較しています。

■エネルギーの有効利用

[国内] 2014年度を基準年として、集計範囲は省エネ法定期報告対象のミウラグループとしています。CO₂はその年度の「電気事業者別排出係数」を使用しています。



※原単位:エネルギー使用量やCO₂排出量を売上げと事務所・工場の延べ床面積を乗じた積で除した値で、2014年度の値を100%として比較しています。



[海外] ミウラグループ海外法人のうちISO14001を認証取得企業の数値です。

エネルギー使用量(原油換算)の原単位比推移

韓国ミウラ工業株式会社



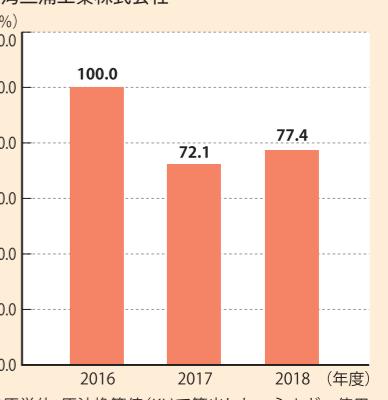
※原単位:原油換算値(KL)で算出したエネルギー使用量を売り上げで除した値で、2016年の値を100%として比較しています。

三浦工業(中国)有限公司



※原単位:原油換算値(KL)で算出したエネルギー使用量を売り上げで除した値で、2016年の値を100%として比較しています。
※年度内の自社製品の蒸気ボイラにおける相当蒸発量の合計値

台湾三浦工業株式会社



※原単位:原油換算値(KL)で算出したエネルギー使用量を売り上げで除した値で、2016年の値を100%として比較しています。

■第三者意見

「ミウラグループCSR報告書2019」を 読んで

一般財団法人CSOネットワーク 事務局長・理事 黒田 かおり氏

アジア財団ジャパン・ディレクター。
民間企業に勤務後、コロンビア大学経営大学院日本経済経営研究所、アジア財団日本の勤務を経て、2004年より現職。日本のNGO代表としてISO26000(社会的責任)の策定に参加。
現在、2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会「持続可能性に配慮した調達コード」WG委員、SDGs推進円卓会議構成員、SDGs市民社会ネットワーク代表理事、国際開発学会理事、日本サッカー協会社会貢献委員などを務める。
ハーバード大学教育大学院修士。



ミウラグループは、設立60周年を迎えました。本報告書には、冒頭の「トップコミットメント」で宮内大介社長が示されているように「熱・水・環境の分野で、環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献する」という企業理念に基づき、これまでの60年の歴史を振り返るとともに、100年企業を目指してチーム・ミウラがトータルソリューションを取り組んでいくという強い意志が表されています。多様化する国内外のニーズに応えるべく事業領域を拡大し、グローバル化をさらに進める姿勢は、企業の経済価値の向上とともに、社会・環境価値創造を目指すものであり、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けて、国際社会からの企業への高まる期待と要請に応えるものでしょう。

60周年企画の特集ページに、ミウラグループの具体的な取り組みが記述されています。

まず、設立60周年という節目に理念体系の見直しをされたことです。企業理念とそれに基づく経営方針の「企業の輪(青)」と、「創造と挑戦」を続け、「信頼と対話」を大切にし、「公平と公正」を守り続けるというミウラウェイと「我々は我が社を最も働きがいのある、最も働きやすい職場にしよう」というモットーからなる「人の輪(赤)」を繋ぎ、無限の可能性(∞)を表現したモチーフになっています。この理念体系は、社員、株主、顧客、地域社会など国内外のステークホルダーに対して、「人」を経営基盤の軸におき、持続可能性(サステナビリティ)を経営に統合していることをわかりやすく表現していると思います。

中国、北欧、ASEANを中心に、さらに拡大するグローバル展開は、ミウラグループの最先端技術により、環境問題の解決、省エネルギー事業などの重大な地球規模課題に取り組みながら進めています。またミウラのボイラを核に、他企業との業務連携やグループ化を通じて、事業領域の拡大し、ソリューション提案の幅を広げています。これらは

SDGsに取り組む上で必要とされる「アウトサイド・イン・アプローチ」—長期的な視点から世界的・社会的ニーズを理解し事業計画や目標を設定していくアプローチを取っていると思います。

ここ数年、CSRで重要度が高まっているのは、国境を超えて伸長するサプライチェーンにおける人権・労働の課題です。ミウラグループは行動規範に基づき調達基本方針を制定し、主要サプライヤーと情報共有をされていますが、とくにグローバルなサプライチェーン上では、環境問題だけでなく、さまざまな人権・労働問題が起きる可能性があります。デューデリジェンスを行い、予想されるリスクの特定や予防策、また実際に問題が起きた時の対応策などをさらに充実させていただきたいと思います。

本稿執筆にあたり、松山市の本社を見学しましたが、多様性を尊重した職場は、ミウラウェイのひとつに掲げられている「公平・公正」に基づいており、社員の皆様がいきいきと働いているのを目にすることができました。また「地産地消」で地域の資源や伝統を重用した社屋を拝見し、真のグローバル企業は地域を大切にするということを感じました。

最後に60周年記念企画に「私たちのCSR活動」というページがあります。ミウラグループの社員の皆様が、国籍や性別、年齢を問わず、「ひとり、ひとりの+1を。」というテーマでCSRに関する決意を書いた葉っぱを持ち、大きな木を作り上げています。ホームページ上の60周年記念特設サイトでは短い動画が掲載されており、多くの社員の方達の写真が登場します。ミウラグループの一人ひとりが「そのひらめきに愛はあるか」を自問しながら日々研鑽されている先に100年企業が確実にある、と思いました。

ミウラグループには世界に誇れる人と技術とひらめきでさらに高みを目指されることを期待します。

■第三者意見を受けて



管理本部常勤特別顧問

福島 俊司

黒田様にはミウラグループCSR報告書への貴重なご意見を賜り、感謝申し上げます。

さて、ミウラは2019年5月1日に設立60周年を迎えました。そこで、今回の特集ではグループのこれまでの歩み、そして「愛とひらめきミウラフェア」や評価のコメントを頂戴しましたミウラグループ従業員による「私たちのCSR活動」の記念企画を紹介しています。これは、60周年を機に、ミウラが社会から愛される特別なブランドであり続けられるように、「ひとり、ひとりの+1を。」をテーマに、世界中の従業員一人ひとりがどのような社会貢献ができるのか自問自答し制作した「サステナブルツリー」です。現在、世界には5,700名を超える従業員がいます。一人ひとりが持続可能な社会実現に向けて自らができる事を実践することで、SDGs達成に向けた意識の向上を目指します。

さらに特集では、グループ海外現地法人が個別に抱える環境問題を取り上げ、日本で培った技術を最大限に生かした改善への取り組みを紹介しました。中国では石炭焚きボイラの規制によりガス焚きボイラの需要が拡大し、その

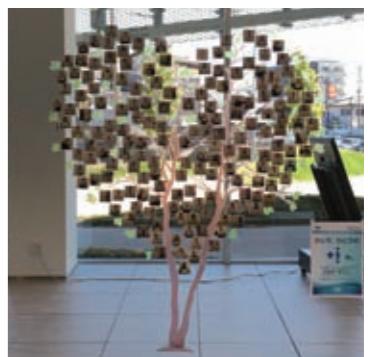
需要に対応するため第2工場建設をスタートしました。また、その他の国々においても、ミウラグループの技術が世界に広がることで、企業理念である「熱・水・環境の分野で、環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献する」企業であり続けたいと考えています。

広がる事業領域の特集では、ミウラのトータルソリューションが未来に向けた注力すべき事業活動として、排水リサイクルや水素エネルギーへの対応についてもご説明をしています。

今回、黒田様からは、国境を越えたサプライチェーンにおける人権・労働問題においてもデューデリジェンスを行い、リスクの対策を検討すべきとのご指摘がありました。ミウラもグローバル化が急速に進んでおりますので、重要課題と認識し、環境問題への対応と同様に海外現地法人とタッグを組んで対策をしてまいります。

その他にも、いただきました貴重なご意見やご提案を参考に、次なる100年企業に向けて世界に必要とされる企業を目指します。

最後になりますが、本報告書をお手に取ってくださったすべてのステークホルダーの皆さんに感謝申し上げます。今後のミウラグループの取り組みをぜひご期待いただければと思います。



ショールーム内に掲示している「サステナブルツリー」

編集方針

本報告書はミウラグループのCSR(企業の社会的責任)を果たすための基本的な考え方や、取り組みに関する2018年度の実績と、今後の計画を報告するものです。CSR活動でとくに重要と考えている環境、品質とCS(顧客満足度)、人財育成や社会貢献といったキーワードを中心に、各ステークホルダー(ミウラグループと関わるさまざまな利害関係者)からの関心が高いと思われることや、ミウラグループがとくに注力していることを優先的に報告しています。

対象範囲

国内グループ会社および海外グループ会社については、一部含まれない会社もあります。

報告対象期間

2018年4月1日～2019年3月31日

但し、本文の記述のなかには一部過去と、直近の情報も含まれています。

ウェブサイトでの情報開示

ミウラグループのCSR・環境情報は、ウェブサイトでもご覧いただけます。
ミウラグループCSR報告書2018の読者アンケートの結果についてはウェブサイトに公開しています。

<http://www.miuraz.co.jp/>

お問い合わせ先

三浦工業株式会社 ブランド企画室

[Tel] 089-979-7019 [E-mail] info_miuraz@miuraz.co.jp